

## 神を畏れ、恐れる

(出エジプト20・18～21)

### 一、19章1節～20章21節の構造

きょう開いたテキストは、19章1節より展開されるシナイ山において律法を授かった記述の中に置かれています。19章1節をご覧ください。〈エジプトの地を出たイスラエルの子らは、第二の新月の日にシナイの荒野に入った。〉とあります。モーセが率いるイスラエルの民、及び彼らを慕って一緒にエジプトから出て来た多くの異国人(出エジ2・38)が、シナイの荒野に入りました。

この、19章1節から20章21節までの構図ですが、神・主が語られ、モーセが神・主に申し上げる際はシナイ山に登ってから、モーセが民に語る際は山の麓というかたちになっています。

ところで私たちは、20章1節から17節を取り上げ、十戒のことばとして読むことが多いですが、前後関係のつながりを注意して読むことは少ないかも知れません。ですが、今回与えられたテキストは、まさしく前後関係を考えないと、意味を受け取れない箇所です。

まず、19章25節と20章1節のつながりを見てみましょう。いかがでしょうか。内容としてつながりますか。つながりません。次に、20章17節と18節のつながりを見てみましょう。すん

なりとつながるでしょうか。つながらないですね。聖書の記述は不親切で分かりにくくなっているとつよつよも、編集者の考えがあって、今の聖書の形に配置されたようです。

そこで次のように考えますとすつきりします。20章1節から17節までの「十戒」と言われる記述は、元々ひとかたまりの文書になっていて、それをこの部分にはめ込んだということでは、20章18節から21節は、元々どこにつながっていたのでしょうか。20章1節から17節までが挿入部分であるなら、単純に20章18節を19章25節につなげてみたらどうでしょうか。いかがでしょうか。つながらないですね。

では、20章18節から21節までの記述は、どこにあったのでしょうか。19章19節と20節の間(厳密には19章前半と後半の間)にあったと考えると、流れがつながります。元々はそこにあったのかもしれませんが、20章1節から17節までの十戒の記述が組み入れられたことにより、20章18節から21節までの記述を、今置かれている場所に持って来た可能性があります。

### 二、テキストが物語ること

いずれにしても私たちは、今与えられている聖書の記述から、メッセージを受け取って行く必要があります。何せ、今の聖書が正典(基準)ですから。

では、何ゆえに今回のテキストが、20章17節で終わる十戒の後に、そして20章22節より始まる「契約の書」の前に、入れられたのでしょうか。

考えられるのは、イスラエルの民が、神のことばである「十戒」を受け取るのに当たって、神への畏れ(恐れ)が必要であると、編集者が受け止めたことでは、20章22節より始まる「契約の書」を受け取るのに当たって、神への畏れ(恐れ)が必要であると編集者が受け止めたことでは、20章22節より始まる「契約の書」を受け取るのに当たって、神への畏れ(恐れ)が必要であると編集者が理解しています。

きょうのテキストには、神を畏れる(恐れる)ことがどういふことが書かれています。18節をやや詳しく見てまいります。〈民はみな、雷鳴、稲妻、角笛の音、煙る山を目の前にしていた。民は見て身震いし、遠く離れて立っていた。〉とあります。シナイ山には黒い雲がかかっており、〈雷鳴、稲妻〉がどどろいたのであります。〈角笛の音〉は「集台の合図」としての意味合いかと思われまします。〈煙る山〉は火山噴火の光景です。当然のこと、〈民は見て身震いし、遠く離れて立って〉いました。ところで、旧約の文書に現れる「おそれる(イルアー)」には、二つの意味があります。畏れ敬う意味と、もう一つは怖いという意味です。私たちが神に抱く思いは、両方です。神を恐れる感情を抱いた民はどうしたでしょうか。19節です。

〈彼らはモーセに言った。「あなたが私たちに語ってください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお語りになりませんように。さもないと、私たちは死んでしまいます。〉と。すなわち民はモーセに、神・主と自分たちとの間の仲介者となってくれるように頼みました。するとモーセは民に答えました。

20節です。そこでモーセは民に言った。「恐れることはありません。神が来られたのは、あなたがたを試みるためです。これは、あなたがたが罪に陥らないよう、神への恐れがあなたがたに生じるためです。〉と。こうして仲介者となつたモーセは、神が御自身をあらわしておられるシナイ山に登って行きました。そして、22節以降、主が「契約の書」を語られたという構図になります。それほほと同じことが、十戒授与の前にもあります。19章16節から20節です。ちなみに、新約時代においてモーセの役割を果たしているのはだれでしょうか。主イエス・キリストです。

### 三、神を畏れ、恐れる

私たちは、主イエス・キリストを信じるときに、御霊によって「アバ、父よ」、すなわち「お父さん」と呼びかけることのできる心をいただきました。そこには、神を慕って畏れ敬う思いと、聖霊を拒み続けた者に向けられる厳しさが、恐れとして伴っているはずはです。